

令和3年度 江戸川区立松江第四中学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	よく考えて自らすすんで学ぶ 体験を通して豊かな心を育む 健康でたくましく生き抜く	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	生徒の希望や夢を育む学校 よく学び 心ゆたかに たくましく 授業改善に努め、学びを継続し、人権を尊重し、人間性を高められる教師
--------	--	----------------------------	---

前年度までの学校経営上の 成果と課題	<成果> 3つの取組を推進 ①「主体的・対話的で深い学び」への授業改善 ②学力向上に向けた全校体制での取組 ③SDGs達成の理解 <課題> 3つの組織的支援 ①不登校生徒への支援 ②学習指導と授業改善による学力向上 ③個に応じた教育
-----------------------	---

教育委員会 重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた 改善策		
					取組	成果 生 保護者	成果と課題	評価	コメント			
いきいきと学ぶ学 校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・毎トレによる適度な課題と支援 ・松四タイムの効果的取組 ・放課後を活用した補習	・毎トレ提出率95% ・家庭学習習慣の向上90%	A	C	C	C	C	家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図る必要がある。	・毎朝の毎トレ回収継続 ・松四タイムのムードづくりの工夫(生徒会の取組)	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・SDGsを軸にした教科等横断的な取組 ・朝読書の充実 ・教科での図書館の活用	・学校図書館の活用で探究的な学習に取り組む(80%) ・卒業論文の作成(全生徒)	B	C	D	D	B	読書活動の更なる充実を進める。	・学校図書館の教科利用 ・成果物発表の機会設定	
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・単元の技能向上を意図した補助運動の実施 ・昼休みの外遊びの推進 ・部活動の充実	・運動の機会を増やし体力向上に取り組む(80%)	B	B	C	C	B	多様な活動により生徒の活躍の場を与え続ける。	ICT機器を活用した授業実践を積極的に活用する。	
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・バラスポーツ選手との交流と体験 ・教科・領域などにおけるオリパラ教育	・バラスポーツに触れ、スポーツへの関心や生き方を考える機会をもつ(90%)	C	B	D	D	B	○本校生徒の保護者がパラアスレチアの選手であり、実技講演を実施できた。生徒達も興味・関心が高まった。	・スポーツに限らず、人権や国際協調など広く教育活動を推進する。	
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・少人数を活かしたによるスピーキング力の向上 ・英語検定の受験率向上	・英語を使っている会話力の実感(80%) ・英検受験者70名以上	A	B	D	D	B	○英語で進める授業を行う共通理解、ALT来校日のインタビューストを実施している。英検受験者は第2回現在で140名である。	・英検IMAの取組を英検等への挑戦に	
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・ネットリテラシーの指導 ・ナルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・いじめのおきにくい学級づくり ・QUの組織的活用 ・校内委員会での情報共有と迅速な対応 ・関係諸機関との積極連携 ・東京SNSルールを活用した課程ルールの指導	・いじめの未然防止、早期発見・早期指導による解消が可能な組織的取組 ⇒いじめ未解決0 ・安全安心な学級・学校(90%) インターネット・SNSを正しく安全に指導する。	B	B	B	B	A	○いじめアンケートの効果的な活用、生活指導部を通じた学校体制での指導を行い、「いじめ未解決0」を達成できている。○講師を招いてQUを効果的に活用している。○SNSルールの見直しを適宜行っている。また、長期休み毎に学校SNSルールを元に家庭SNSルールを作成してもらい、しおりに記入してもらっている。	・アンケートの有効活用で早期解決を。地域・家庭との連携で加害生徒への指導や支援も必要。	
	生徒会自治の向上	・専門委員会・中央委員会の指導を通じた生徒自治力の向上	・主体的に所属集団を向上させる意欲・態度の育成	・生徒会活動が学校生活の向上につながっている(80%)	B	A	B	B	A	▲保護者評価がBである。 ▲学校の活動をホームページ等を通して保護者に伝え、理解を得る。	活動を地域へ拡大する。	・中央委員会充実によるボトムアップ
特別支援教育の 充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・SC、巡回心理士の情報共有と組織的支援 ・保護者との関係づくりと機関諸機関との連携 ・エンカレッジルーム、相談室の活用	・生徒・保護者の幅みが、教師やSCなどの相談や面談、エンカレッジルームの活用によって縮減・解消できる(80%)	A	D	C	C	C	○巡回指導やエンカレッジルーム、SCを利用・活用している特定の生徒や保護者との連携・支援はスムーズ。 ▲「すべての家庭への周知」という点が課題。	・特別支援教育について広く家庭に周知する。 ・必要時にすぐに相談に繋がるよう「特別支援教育だより」を発行する。	
	不登校支援	・不登校支援委員会の充実 ・オンライン面談、授業配信の実施	・学校とのつながりを絶やさない ・タブレットの活用も	・新規0、引きこもり ・不登校生3名	A	/	/	C	C	○ICTの活用により、面談や最新情報へのアクセスが可能になった。	オンライン受講生徒との関係作りと小中連携による支援。	
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・デジタル教科書・学習アプリ活用、タブレットの目的設定	・全教科がタブレットを使ったわかりやすい授業80%	B	D	C	C	C	▲タブレット使用における準備不足 ▲目的外使用	インターネットの弊害への指導も必要。	・校務でのタブレット活用を促し、教員が慣れる。
	授業力向上	・小グループによる対話的な授業 ・知識が「つながり」が「おもしろい」「おもしろい」と思える授業 ・授業の内容を可視化 ・授業の相互公開	・校内研修年3回 ・市松模倣4人組学習 ・「本時の目標」まとめの表示 ・校内OJT(組織的人材育成)	・「授業を受けるのが楽しい」90%	A	B	B	B	B	○授業力向上研修や課題を設定して研究授業に取り組めたこと。 ▲4人組学習など話し合い活動を活性化すること。	課題山積の中でも、教師の授業力に期待。	・教科部会の充実 ・他校の実践参観
	人権感覚と人権意識の育成	・教師自身の言語環境の向上 ・LGBTへの理解と支援 ・差別や偏見のない環境づくり	・生徒の人権を大切にした言動 ・制服の選択制 ・全教科・教材を通しての多様な生き方・考え方の理解	・生徒の人権を尊重(95%) ・多様な生き方を知り、尊重することができる(91%)	A	A	A	B	B	A	○SDGsの目標5のジェンダー平等の実現と昨年度に引き続き、性の多様性を理解し、全ての子供を尊重するために男女混合名簿を採用した。	多様性の時代、多面的多角的な思考力や正しい情報の発信が必要。
特色ある教育の 展開	SDGsに取り組む学校	・授業におけるSDGs ・特別活動・行事におけるSDGs ・生徒会活動によるSDGs	・教科などにおけるSDGs達成に向けた実践	・SDGs達成に向けて行動している(90%)	C	B	C	C	C	○3学年学級委員会による朝の地域清掃活動を、毎週火曜日7:45~8:25に継続して行っている。	江戸川区の取組に則り指導・活動の充実を。	
	教育活動におけるカリキュラムマネジメント	ESDカレンダー作成・見直しによる教科等横断的な取組と探究的な学習の取組	・ESDカレンダーの活用 ・主体的に学習に取り組む態度の育成	・教科・読書科・総合的な学習の時間などにつながる深い学び(80%)	B	A	B	B	B	○ESDカレンダーの作成 ▲継続的な取組不足		・教師の意識向上 「じぶんごと」としての取組 ・教員集団のチーム力向上
	道徳教育の充実	・考え議論(対話)する授業により、多様な意見を受け止め、自身の価値観を高める。	・ローテーション道徳 ・発言しやすいうちづくり ・教材開発	・積極的な対話を通し、自身や他者とのかわりについて深く考える。(80%)	B	B	B	B	B	○ローテーション道徳の実施 ▲授業の工夫(わからないに則した展開)	人権教育と両輪で指導の充実を。	
保護者・地域との連携	・保護者・地域との交流 ・ボランティア活動への積極的な取組 ・ホームページの充実	・開かれた学校を意識した情報提供と公開 ・地域の活動への参加促進	・学校のことが家庭で話題にある。 ・学校のことがよくなる。(80%)	B	B	B	B	B	▲コロナ禍における活動の見送り ○ホームページの更新がやや進んだ。	継続的に生徒が地域で活躍できる場を提供する。 ・学校の活動がHPでの発信は重要。	・ボランティア活動などの伝統的取組の復活。 ・HPの組織的(学年・部活・生徒会)更新。	